We support the ilc

希望のひかり

第74回

今回は「科学」や「宇宙の謎に迫る」をキーワードに、ＩＬＣと関係の深い国立天文台水沢ＶＬＢＩ観測所についてお知らせします

国立天文台水沢ＶＬＢＩ観測所は、１８９９年に前身である臨時緯度観測所として開所してから１２０周年を迎えました。木村榮（ひさし）初代所長が発見したＺ項を皮切りに、史上初のブラックホールの撮影成功への貢献、小惑星探査機「はやぶさ２」の運用に携わるなど、世界の天文学をけん引しています。

12月には、国立天文台水沢創立１２０周年記念の関連事業が開催され、国立天文台水沢と地域の歩みや最新の宇宙研究が紹介されました。

今回の希望のひかりでは、この記念事業の様子をお知らせします。

記念式典

常田台長から市に感謝状などを贈呈

14日にプラザイン水沢で、国立天文台水沢創立１２０周年記念式典が開かれ、関係者や来賓など約２００人が参加しました。

常田佐久（つねださく）国立天文台長は式辞で、「ブラックホールの撮影成功は、本間希樹（まれき）所長をはじめとする水沢チームが大きく貢献し、国立天文台水沢の創立１２０周年に花を添える成果となった。地元の皆さまの支援に厚くお礼申し上げる」とあいさつしました。

来賓の達増拓也知事は、「功績が岩手の地で生まれたことは県民の誇り。先人たちが築いてきた科学技術の歴史の上に、ＩＬＣ計画など新たな時代がやって来ようとしている」と述べました。小沢昌記市長や藤原崇衆議院議員、小平桂一元国立天文台長も祝辞を寄せました。

その後、本間所長が「１２０年の歴史」と題して講演。国立天文台水沢の歩みをスライドで紹介し、「水沢の発展と共に、国立天文台水沢は歩んできた。次の１２０年も変わらぬ支援をお願いしたい」と語りました。

★アテルイⅡ解説パネル設置

市は、国立天文台水沢キャンパス内にスーパーコンピューター「アテルイⅡ」の解説パネルを設置し、14日に除幕式を行いました。

アテルイⅡは天文学専用としては世界最高の性能を誇るスーパーコンピューター。普段は非公開ですが、解説パネルで概要や命名の由来を知ることができます。お越しの際は、ぜひご覧ください。

関係者が出席して行われた除幕式

国立天文台水沢 創立120周年記念

本コーナーでは、ＩＬＣ計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。
■問い合わせ＝本庁ＩＬＣ推進室（☎34-2123、FAX22-2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

★天文台略年表 since1899

▼１８９９（明治32）年
・臨時緯度観測所を設置
・国際緯度観測事業が発足

臨時緯度観測所庁舎（現・木村榮記念館）
ⓒ国立天文台

▼１９０２（明治35）年
・木村榮がＺ項の論文を発表
▼１９２０（大正９）年
・臨時緯度観測所から緯度観測所へ

旧緯度観測所本館（現・奥州宇宙遊学館）
ⓒ馬場幸栄　ⓒ国立天文台

▼１９４１（昭和16）年
・木村榮が退官
▼１９７０（昭和45）年
・緯度観測所の研究員・若生康二郎がＺ項の原因を解明
▼１９８８（昭和63）年
・緯度観測所から国立天文台水沢へ
▼２００１（平成13）年
・ＶＥＲＡ電波望遠鏡を建設
▼２００８（平成20）～２００９（同21）年
・月探査機かぐやの国際ＶＬＢＩ観測
▼２０１３（平成25）年
・スーパーコンピューター・アテルイを設置
▼２０１８（平成30）年
・スーパーコンピューター・アテルイⅡを設置
▼２０１９（平成31）年
・はやぶさ２が小惑星リュウグウへの１回目タッチダウンと人口クレーターの形成に成功
・ＥＨＴが巨大ブラックホール撮像の成功を発表
▼２０１９（令和元）年
・はやぶさ２が小惑星リュウグウへの２回目のタッチダウンに成功

記念講演

15日にはＺホールで、記念講演会「１２０年目の最新宇宙研究」が開催されました。市内外から天文ファンなど約４００人が聴講。本間所長ら４人が登壇し、１２０年の歩みを踏まえた最新の研究や、木村初代所長の功績などについて講演を行いました。

★講演の内容

①本間希樹・水沢ＶＬＢＩ観測所長

国立天文台水沢１２０年の歩みと、ブラックホールの撮影などについて紹介。

「地域の皆さんと一緒に、１２０周年を祝えることをうれしく思う。次の１２０年に向かって研究を続けたい。ブラックホールについては、今後静止画を動画にする研究などを進めたい」

スクリーンの前で講演する本間所長

②竝木（なみき）則行・ＲＩＳＥ（ライズ）月惑星探査プロジェクト長

国際宇宙探査について、月や小惑星「リュウグウ」の形状などを写真も交えて紹介。国立天文台水沢は地形観測などに大きく貢献しています。

「木村初代所長のＺ項発見は今の科学に重要な貢献をした。私たちも１２０年先の人類に認められるような研究をしていきたい」

③小久保英一郎・天文シミュレーションプロジェクト長

国立天文台水沢が運用するスーパーコンピューター「アテルイⅡ」とシミュレーション天文学を紹介。

「ブラックホールの撮像には、確認としてアテルイⅡでの計算も行われた。望遠鏡では見えない宇宙の謎を解くため、物理の法則で計算してシミュレーションしていくのがアテルイⅡの役割」

④一橋大学社会科学古典資料センター　馬場幸栄（ゆきえ）助教

木村初代所長の活躍や人となりを当時の貴重な写真を織り交ぜて紹介。幼少期や、臨時緯度観測所所長着任から退官までの観測や地域との関わりの様子を解説しました。

悪天候で観測ができなかったとき、子どもと映画館に行った木村初代所長が、ふいに天候が良くなり子どもを置いたまま観測所に駆け付けた、といったエピソードが紹介され、来場者は興味深く耳を傾けていました。

Interview　講演を聞きに来た子どもたちの声――

高家（こうけ）大翔（だいと）君
（盛岡市、中学１年生）

アテルイがシミュレーションして作った動画がかっこいいと思いました。講演会後、本間教授に直接ブラックホールのことを聞くことができてうれしかったです。将来は、天文学に関することをやりたいと思っています。

池田（いけだ）崇大（たかひろ）君
（常盤小学校２年生）

宇宙のことが大好きです。Ｚ分団に入っているし、奥州宇宙遊学館にもよく通っています。竝木先生の「はやぶさ２」や小惑星「リュウグウ」の話が面白かったです。将来は、ＪＡＸＡ（ジャクサ）で働きたいです。